社会福祉法人　桂堂会　　令和５年３月
理事長　藤森 喜一郎 様　　新井田こども園

＜サービスの質の評価に関する取り組みについての報告書＞

令和５年２月２７日に、職員全員で「自己評価チェックリスト」に基づいた話し合いを行い令和４年度の福祉サービス内容評価を実施しましたので、ご報告申し上げます。

１…子どもの発達

発達と援助＝未満児クラスは、子ども一人ひとりの発達段階や発達の遅れがある子どもたちに、必要に応じた援助ができるよう、クラスにとらわれず発達に応じたグループ分けで活動し、職員間での連携を深め、適切な援助や環境構成に努めた。以上児・未満児ミーティング、ケース会議等を通して、子どもたちの様子、物的・人的環境について話しあい、全職員が情報を共有できるためにはどうすればよいか、意見を出し合うなど、職員の繋がりを深めた。気になる様子が見られる子どもには、保護者と情報を共有しながら、原因を探り、個々の状態や特性に応じた働きかけができるように努めた。

２…教育及び保育の内容

［ 養護 ］＝コロナ感染症・インフルエンザが流行し、園児だけでなく職員も罹患してしまったりと、コロナ感染症に関しては一部休園になる事があった。休園中は健康観察機関として、症状が見られた時にはすぐに園に連絡を入れてもらうとともに、医療機関の受診をお願いするなど早めの対応に努めた。

全クラス毎日の検温と健康状態を記入してもらう事とし、登園時の視診・触診・検温を行うことで、発熱や体調の変化、異常に早期に気付き、家庭との連絡に漏れのないようにした。。朝礼・昼礼・連絡ノートを通じて、情報を共有し、職員不足の事態になった時であっても担任以外の保育教諭が対応に努めた。

［ 教育 ］＝コロナ感染症が流行の中でも、出来る限り行事は中止することなく、園内外の活動を充実させることが出来た。出来ないではなく、どうすればできるのかと考えるように努めた。園児が主体的にのびのび遊べるように、今までの活動内容を見直し様々な活動を意欲的にできるようにする。強い言葉がけや自分の感情で子どもを叱りつける事のないように、丁寧な働き方を意識して関わるように心がけたことで、少しずつ保育者の関わり方にも変化が見られた。優しい声がけや、保育者も落ち着いた雰囲気作りを心がけたことで、しっとりと子どもたちが落ち着いて遊びこめるようになったり、好きなことをのびのびと楽しみ、今日も楽しかった！と明日を楽しみにして過ごせるようになってきたと感じる。

◎ 環境＝園庭が土に整備してもらえた事で、つまずいて転ぶことはなくなったが、土が乾いていると未満児さんは、足の運びがまだ上手ではないので滑って転んでしまうことがよくみられた。雨が降ると、土が流れ出てしまい大型遊具の足場が見えてきているので、今後見

直しが必要。コロナ感染症が拡大した中、子どもたちのマスク着用や食事の取り方など子どもたちにとって、どこまで感染対策として取り組むべきなのか、成長を止めるものにならないように取り組んできた。クリスマスツリーを購入してもらい、初めて玄関に飾り、子どもたちも大喜び。保護者の方たちにも大変喜んでもらえた。今年も畑に、大根、ジャガイモ、さつま芋、人参、ピーマン、パプリカ、はつか大根、インゲン、きゅうり、ミニトマトを栽培し、実がなり、収穫を楽しんだ。今年は不作で、大根は数が少なかったので・1本を 2～3個に切り分けてみんなで持ち帰った。サツマイモも収穫が少なかったので、お店で購入したものをプラスして、焼き芋をした。焼く前の準備から子どもたちと一緒に楽しむことができた。壁紙を新しくしてもらい、明るい環境となった。保育室では画びょうを使用しないように工夫をした。今年はコロナ禍の影響で、楽しめる行事が減る事がないようにと、今年はハロウィン仮装を盛り込むなど、いつもとまた違った活動を職員間で、アイデアを出し合い進めることができた。

◎ 言葉＝子どもの考える力を引き出す為に工夫を凝らし、文字や数字など発達にあった言葉がけ・配慮ができるよう努めた。時間は果物・数字・時間で伝えるようにして、時計を意識して過ごせるようになってきた。思ったことや伝えたいことは自分の言葉で相手に伝えられるように配慮してきた。また、言葉の語尾には「です、ます」をつけて発表できるようにしている。未満児クラスでも言語の発達を促すために、毎日必ず絵本や紙芝居の読み聞かせや手遊びなどを繰り返し楽しむことで、言葉や動作を真似て楽しんでいる。

◎ 表現＝未満児クラスは保護者参観日の「ミニ発表会」に劇遊びや楽器を鳴らしたり、曲に合わせて身体を動かすなど、表現する楽しさを味わうことができた。保護者の前で、いつもと違う雰囲気に泣いてしまったり、立ち止まってしまう子もいたが、子ども達にとって大きな成長につながる体験となった。保護者の方も目の前で発表を見ることが出来、大変喜んで頂けた。以上児クラスは「成道会」は、今まで頑張ってきたものを見せる事ができ、大きな舞台に立って成功した体験は子どもたちにとって大きな自信につながった。3学期には、以上児クラスが各クラスで鍵盤ハーモニカを使って、それぞれ子どもたちに見合った合奏に取り組み、お別れ会に演奏した。3歳児は鍵盤ハーモニカに挑戦したり、様々な楽器に触れ楽しんだ。

◎ 障がい児保育＝

年長児1名、年中児1名（ウイリアムズ症候群）桂堂・はまなす併行通園。年少児 1 名（プラダ―ウイリー症候群）毎週金曜日園で1日過ごしている。2歳児女児右耳高度難聴・左耳軽度難聴の為、補聴器をつけて過ごしている。岩手医大より、関わり方について書面で教えて頂いたり、八戸ろうあ学校とも連携を図り、分からないことがあったらアドバイスをしてもらうなど、保育環境を過ごしやすい環境に整えていく。毎日導尿が必要でお昼に保護者が来ていたが、保護者の負担を考慮し、看護師が導尿する事になった。

3…教育及び保育の内容に関する全体的な計画及び評価

全体的な計画を作成し、教育課程に基づいて、年、月、週の指導計画を立てて教育及び保育

を実践している。就学に向けたアプローチカリキュラムの計画を新たに立て、年長児は小学校の就学までに身に付けたい力を一年間の目標を立てて実施してきた。目標をもって、諦めないで取り組む事で、出来る力を伸ばし、自信へとつながる保育を心掛けてきた。

日々の活動を通して、今子どもたちが必要となるものな何か、育って欲しいと感じる姿を職員間で意見を交わし、以上児クラスは特に、内容がいつも充実したミーティングであった。今後も、外部研修やキャリアアップ研修等で学んだ知識を保育教諭等で共有しあい、実践に活かせるように学び、職員の質の向上を図っていく。

4…健康及び安全

◎ 事故予防＝「事故防止委員会」を設け、副園長、主幹、以上児・未満児のリーダーの４人で「事故リスク軽減の為のチェックリスト」の確認と「インシデントレポート」の事故関連の検証をしている。今年度は事故報告書４件を検証した結果報告とそれに伴い、今後の対策についての話し合いもし、後日職員会議にて報告し共有している。事故につながる危険な場所・お散歩で遊ばせてもよい場所・遊ばせ方についてもグループワークを行い園内研修をするなどして、今までの活動内容を見直した。抜け出しにも十分気をつけるように努めた。子どもたちが揃っているかどうか、日中活動の合間でも人数確認をする事を怠らないように努めた。怪我につながるものがあれば、すぐに報告しすぐに改善できることであれば、早急に修理・対応してもらうことが出来ている。

◎食物アレルギー＝３才児女児は「乳製品・大豆」４才児男児は「山芋・カシューナッツ・ピスタチオ」除去となっている。３才児女児に関しては、家庭で大豆製品を少しずつ食べさせていて、負荷試験をして結果次第では大豆の除去が解除になるとの事。職員全体で共有し、アレルギーの園児に対して、給食調理員とも連携を図り、トレーの色別や名前カードを用いたり、確実に間違わないように努めている。食器を色付きに変え、見て違いが分かるようにした。

◎食育＝調理担当者が日替わりでその日のメニューや食材・栄養について、分かりやすく話をしてくれる事もあって、食材に関心をもって食事している。また、園児が栽培し収穫した野菜を洗ってその場で食べたり、給食調理に使い、食材への興味や関心を引き出すようにしている。例年に引き続き３歳以上児がカレーライスやフルーチェ作りを行う。クッキング教室は、今年度も２回実施でき、年長児のお泊まり保育での夕食材料を購入するお買い物体験もできた。他にもケーキ作りをしたり、今年は初めて餅つき会を予定して、みんなで餅をつく体験をした様々な体験から園児が食への興味が出るような計画を立てて実施した。

◎感染症＝コロナウイルス感染症の流行に伴い、一部休園を余儀なくされた。対策について早急に保護者に文書を配布・掲示をする。全クラス毎日の検温・健康状態を記入、手指の消毒、マスク着用、県をまたいでの移動を避けるように、家庭で２週間様子を見てもらうなど、職員も同様、感染予防に努めた。今年はコロナ感染症の他に、手足口病・RSウイルス・インフルエンザＡが流行し、小学校での流行に伴い兄弟間での感染も認められ、感染が広がってしまった。

5…保護者に対する支援

◎ 保護者＝子どもの事で、保護者が困っていることや気になる事があり相談された時には、保護者の思いを受け止め個別に話し合う場を設けたり、園での様子をみてもらうなどして、どういう支援、関わり方が必要なのかアドバイスするように努めた。内容によっては園長に相談するなどして、適切に対応している。積極的に声をかけるなどして保護者と信頼関係を築けるよう努めてきた。保育参加には毎年参加し、楽しみにしている保護者も多かったが、今年はコロナ禍で保育参加はできなかったのだが、年長児の保護者の方のみ年明けから保育参加を募り、最後の園の様子を見てもらうことにした。諦めていたが、最後保育参加できて良かったと喜んでもらえた。

◎ 虐待＝早期発見に努めているが、今年度は虐待を疑うようなケースは１件もなかった。

◎ 子育て支援＝コロナ禍の中ということもあり、今年はクラス懇談会は実施できなかった。保護者の方たちには園内への侵入を控えてもらう時期が続き、保護者の方たちとのコミュニケーションがなかなかとれないので、積極的に玄関先で声をかけるなどして、信頼関係が途切れないように努めた。入園希望の見学者が訪問した際には、笑顔で丁寧に園の特徴を伝えながら、質問や要望にも適切に対応するように心掛けた。コロナ感染症対策として、見学の際には園内進入は避け、玄関先で対応している。

6…職員の資質向上

◎ 一般常識＝ゆとりをもって出勤し、身だしなみ服装、言葉遣いや礼儀をわきまえた態度で仕事に臨むよう努めた。連絡事項は職員が皆周知できるような体制づくりに努めた。書類の提出期限や就業規則など守られるよう声を掛け合い、保護者や来客に対しては、明るく笑顔で対応するよう心掛けた。子どもたちへの乱暴な声がけ・関わりがないように常に意識して優しい雰囲気を心掛けて保育に努めた。人員が不足の場合には、状況に応じた適切な対応ができるようお互い様の気持ちで協力し合った。

◎ コミュニケーション＝職員間の連携を深め、発達段階に応じた援助がスムーズに行えるように心掛けた。自分のクラス中心として考えるのではなく、全体を見通して、お互い尊重し合って保育に臨んでいる。問題点があればすぐミーティングし意見し合い、改善に努めた。パート職員にも伝達を忘れる事のないようにするのだが、伝達漏れが度々あるので、リーダーを中心に確実に伝わるように努めた。

◎ 保育教諭の意欲・姿勢＝今年度はコロナの影響もあり、研修報告は少ない状況ではあったが、以上児・未満児ミーティングや会議で様々な問題、課題を取り上げ、意見し合うことで、園の資質向上に繋げるように努める事ができた。特に意識して取り組んだ事として、子どもたちに対する言葉使い・乱暴な関わり方があげられ職員間でお互いに意識して保育に努めてきた。一人ひとりの意識が高まり、より良いものとなるよう、どの職員も前向きで意欲的であった。

子どもたちが楽しく過ごせるようにと、ハロウィンに職員が仮装をして子どもたちを楽し

ませよう！と、新しいものを提案するなどして意欲的に保育に努める事ができた。

◎　指導力＝職員の経験年数に限らず、指導力に関して力量の差はあるが、職員の力量を把握しながら、それぞれの得意、不得意を考慮しながら、フオローし合って、一人ひとりの良い面を活かして教育及び保育に力を注げるよう、協力体制を整えていく。成道会では、子どもたちが楽しみながら取り組めるように、どうしたら楽しくできるのか、面白いものになるのか、意見しあって工夫し、やれることは子どもたちにやってあげたい！と協力しあった。和太鼓指導では、経験者が少ない中で、指導の仕方も手探り状態ではあったが、職員が年長の担任をサポートし、指導の仕方を学びあえた。

＜今後の課題＞

◎日々の保育の中で、子どもたちに対する正しい言葉遣い、優しい関わりを常に意識して、今まで以上に気を付けて保育に努める必要がある。

◎新年度、「サービスマニュアル」の読み合わせをするなどし、再確認していく必要がある。

◎思い付きの保育ではなく、１年を見据えた計画をたてるようにする。

◎保護者への配慮（おガール配信・掲示物）を忘れずに、利用できるものは上手に使いこなして連絡。おうちえんのアプリを導入したら・・・もっと簡単に園児たちの様子を配信できるようになるのでやり方を学ぶ。保護者の方に喜んでもらえるように、取り組んでいく。

◎ミーティングを毎日以上児・未満児それぞれが毎日出来るような環境づくりをする。

◎日々の保育では指示命令や指導型にならないよう、職員一人ひとりが十分に心がけ、のびのびと好きな遊びを楽しめる環境づくりを目指す。

◎使ったものは元の場所に戻す、整理整頓を心掛ける。自分が出したものでなくても気が付いたらやってあげ、やってもらったらありがとうの気持ちが大切。整った環境が維持できるように心掛ける。

◎どこのクラスにいても、報連相は忘れずに伝え合う。

◎チーム保育の重要性を認識し、チームの一員として意思の疎通を図り、連携を取り合う姿勢を一人ひとりが心がけて教育保育に取り組む。

◎給食は無駄をなくすようにどんどん見直し、経費削減できた。勤務時間に事務作業できる時間も確保し、残業しないようにしていく。

◎給食の職員同士、基本的な事は周知出来てはいても、それぞれにやり方の違いがあり、改善点が見られた。給食ミーティングを設けて、共有しあった。

◎職務分担に関しては、引継ぎをしっかりと行う。わからないままにせず、聞いて確認する事

◎今までのやり方にとらわれずに、子どもたちの現状を見極め、今できることを工夫して楽しい保育ができるように取り組んでいく。